



東洋大学

# 東洋大学の新生の特徴と 大学への期待

---

## 新生アンケート結果

3ヵ年比較（平成27年度～平成29年度）

東洋大学 IR室

## はじめに

---

IR室では、大学全体及び各学部・学科のさらなる教育改善を目的として、「新入生アンケート」・「在校生アンケート」・「卒業時アンケート」を実施しています。アンケート調査はそれぞれ、1年生、1年生から3年生、4年生を対象として、大学の学習環境、学習経験や大学生活に関する質問項目で構成されており、集約結果はIR室による分析を行った後、IR室運営委員会を通じて、教学執行部や学部長会議及び教職員・学生にフィードバックされています。

新入生アンケートは、入学後約1ヵ月を経過した時点の新入生を対象に、入学の契機や学修目標、その他各種大学サービスに関する満足度を中心に調査を行うものでありますが、本報告書では、平成29年5月に実施した新入生アンケート結果について、過去2年間のデータと経年比較をしながら、結果の特徴及び変化の傾向を検証しています。今後、より精緻な分析を続け報告していく予定ではありますが、まずは本報告書をお届けしますので、日ごろの教育活動にご活用いただけますと幸いです。

調査の実施に際し、多大なご協力をいただいた各教職員や学生の皆様に厚く御礼申し上げます。引き続き、IR室の取組に対してご理解・ご協力くださいますよう、何卒よろしく願い申し上げます。

2018年3月

IR室長・学長 竹村 牧男

● IR室運営委員会委員

竹村 牧男 委員長 (IR室長・学長)

高橋 豊美 (教務部長・副学長)

中原 美恵 (学生部長・副学長)

松原 聡 (副学長)

北脇 秀敏 (副学長)

劉 文君 (IR室准教授)

林 邦男 (学長室長兼大学評価支援室長)

高橋 清隆 (国際部長)

● IR室事務担当 (学長室学長事務課)

田中 明紀

新山 文洋

阿部 佑

佐藤 佳孝

---

## 平成29年度新入生アンケート調査実施概要

○実施期間：平成29年5月8日(月)～27日(土)

○対象者数：8,033名(平成29年4月新入生)

○回答者数：5,038名

○回答率：62.7%

---

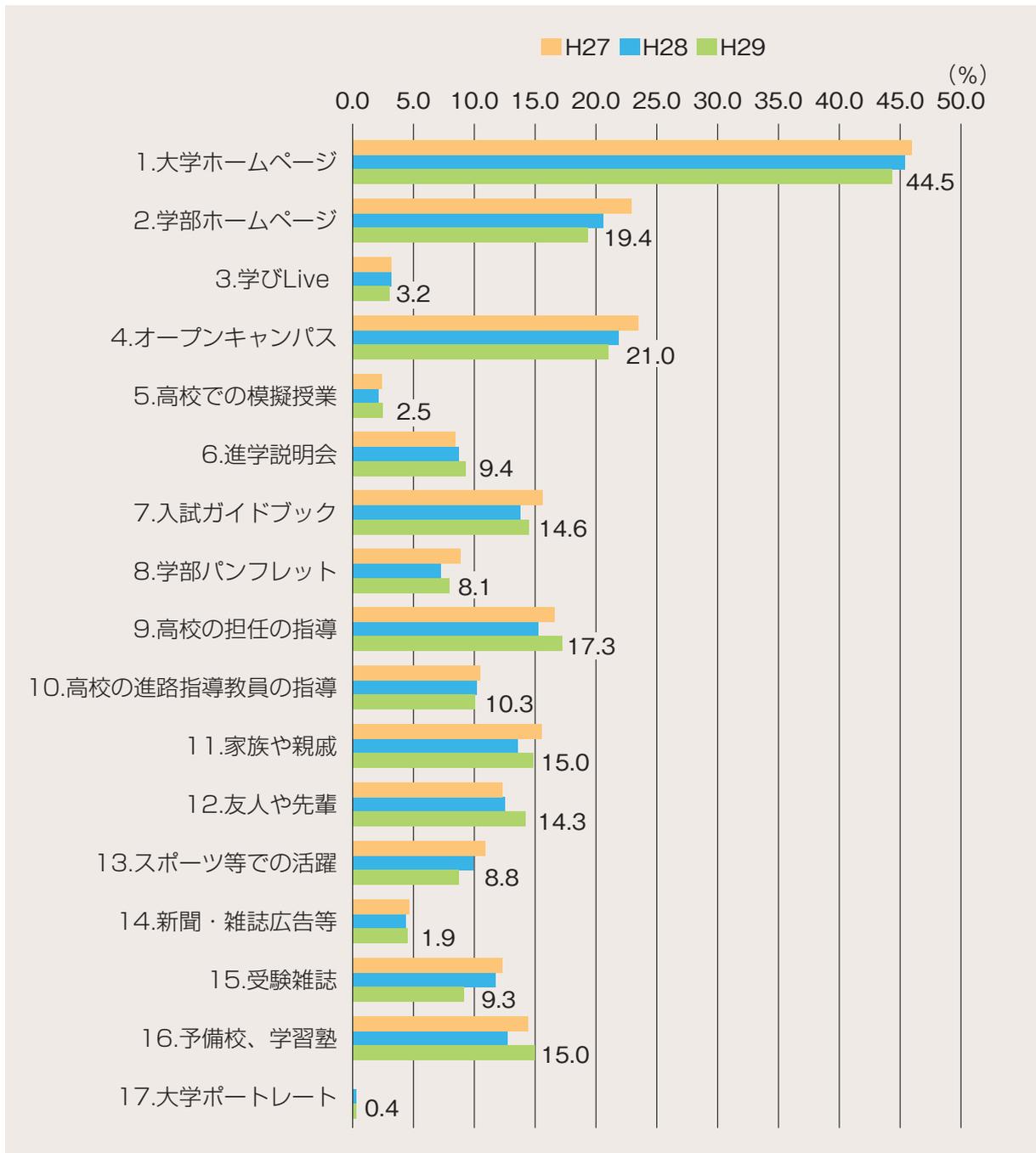
## 過年度実施新入生アンケート回答率

○平成28年度新入生アンケート回答率：63.3%(4,797名/7,575名)

○平成27年度新入生アンケート回答率：55.6%(4,179名/7,520名)

# Q1

何を通じて、東洋大学および入学した学部・学科を知りましたか。  
(あてはまるもの全選択)

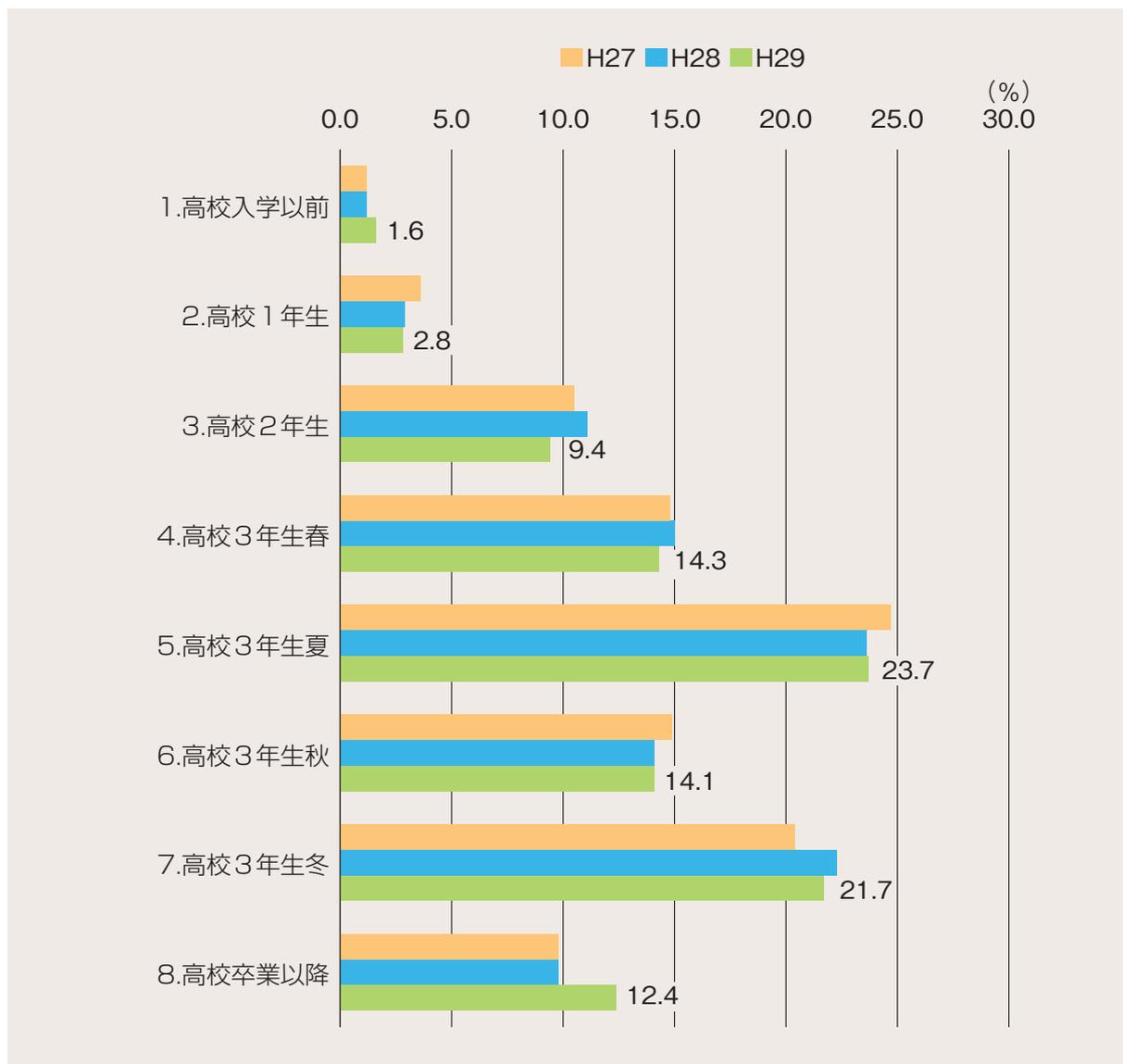


※ 17については、H28 から項目追加

「1. 大学ホームページ」(44.5%) は最も多く、4割を超えている。「4. オープンキャンパス」(21.0%)、「2. 学部ホームページ」(19.4%) は2割前後であり、これら3つの項目は年々減少の傾向が見られる。「9. 高校の担任の指導」(17.3%)、「11. 家族や親戚」(15.0%)、「16. 予備校、学習塾」(15.0%)、「7. 入試ガイドブック」(14.6%)、「12. 友人や先輩」(14.3%) は1割台であり、これらの項目はいずれも前年度より増加している。

## Q2

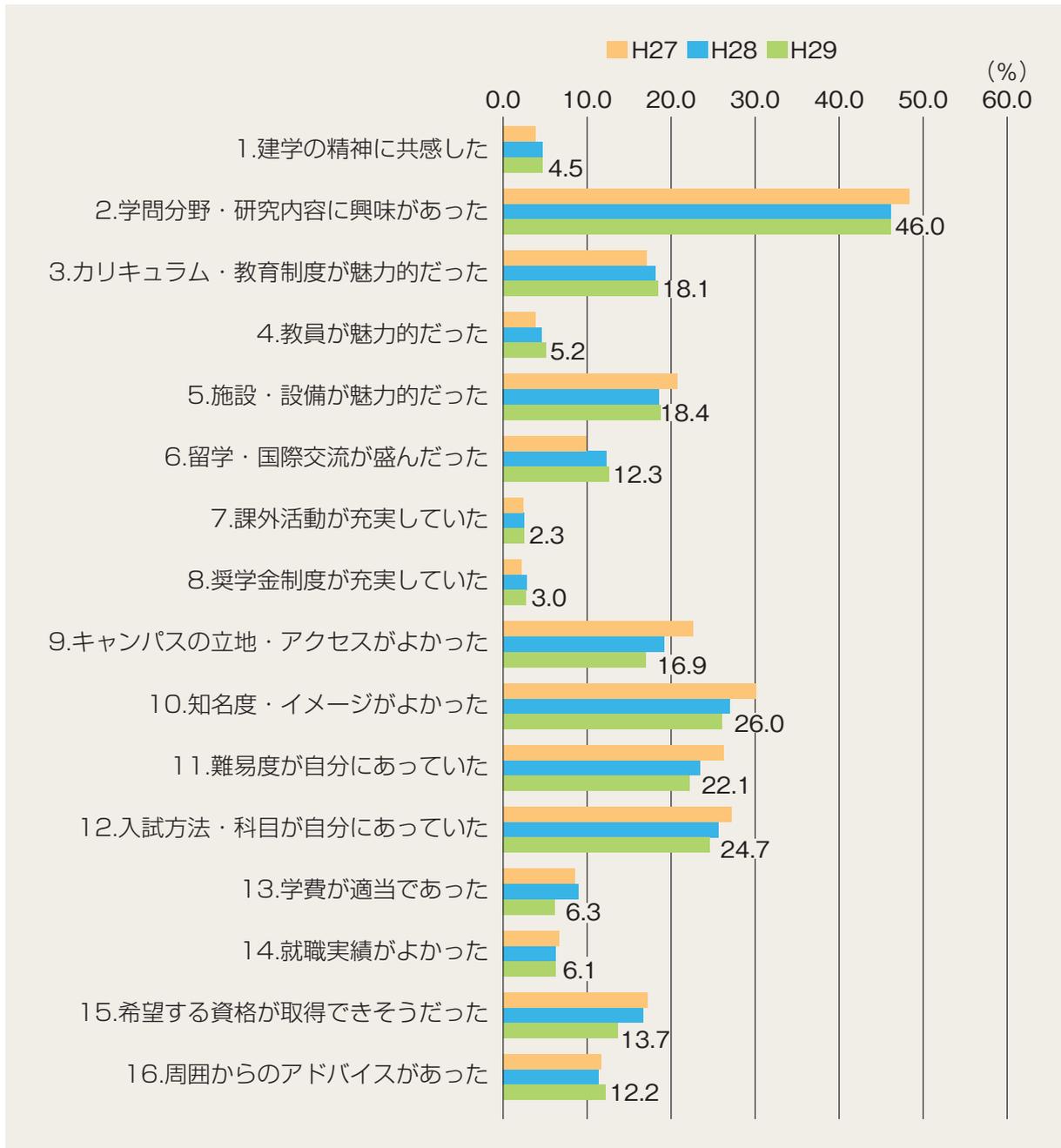
いつ頃、東洋大学および入学した学部・学科の受験を意識し出しましたか。  
(1つ選択)



「5. 高校3年生夏」(23.7%)と「7. 高校3年生冬」(21.7%)は、それぞれ2割強、合わせて約45%となっている。「4. 高校3年生春」(14.3%)と「6. 高校3年生秋」(14.1%)はほぼ同じく約14%である。これらを合計した高校3年時の合計は約74%になり、経年での変化はほぼ見られない。「8. 高校卒業以降」(12.4%)は1割を越えており、過年度より増加している。

### Q3

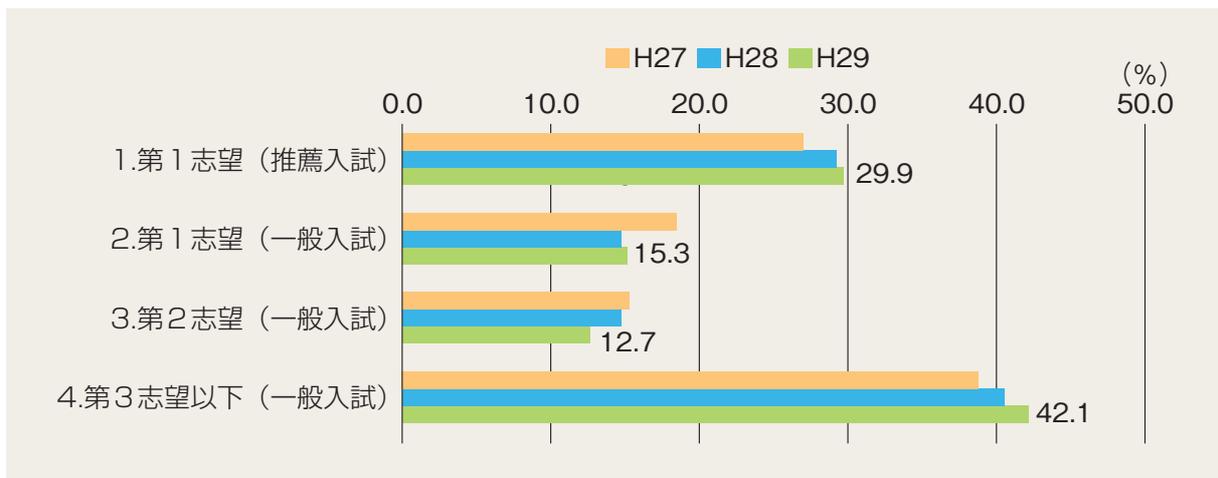
## 東洋大学および所属学部・学科を志望したのはなぜですか。 (あてはまるもの全選択)



「2. 学問分野・研究内容に興味があった」(46.0%)は最も高く、「10. 知名度・イメージがよかった」(26.0%)、「12. 入試方式・科目が自分にあっていた」(24.7%)、「11. 難易度が自分にあっていた」(22.1%)は2割を超えている。その他、「5. 施設・設備が魅力的だった」(18.4%)、「3. カリキュラム・教育制度が魅力的だった」(18.1%)、「9. キャンパスの立地・アクセスがよかった」(16.9%)は、15%以上である。

経年変化を見れば、「9. キャンパスの立地・アクセスがよかった」、「10. 知名度・イメージがよかった」、「12. 入試方式・科目が自分にあっていた」、「11. 難易度が自分にあっていた」は減少傾向にあり、「3. カリキュラム・教育制度が魅力的だった」、「6. 留学・国際交流が盛んだった」の項目は増加傾向にある。

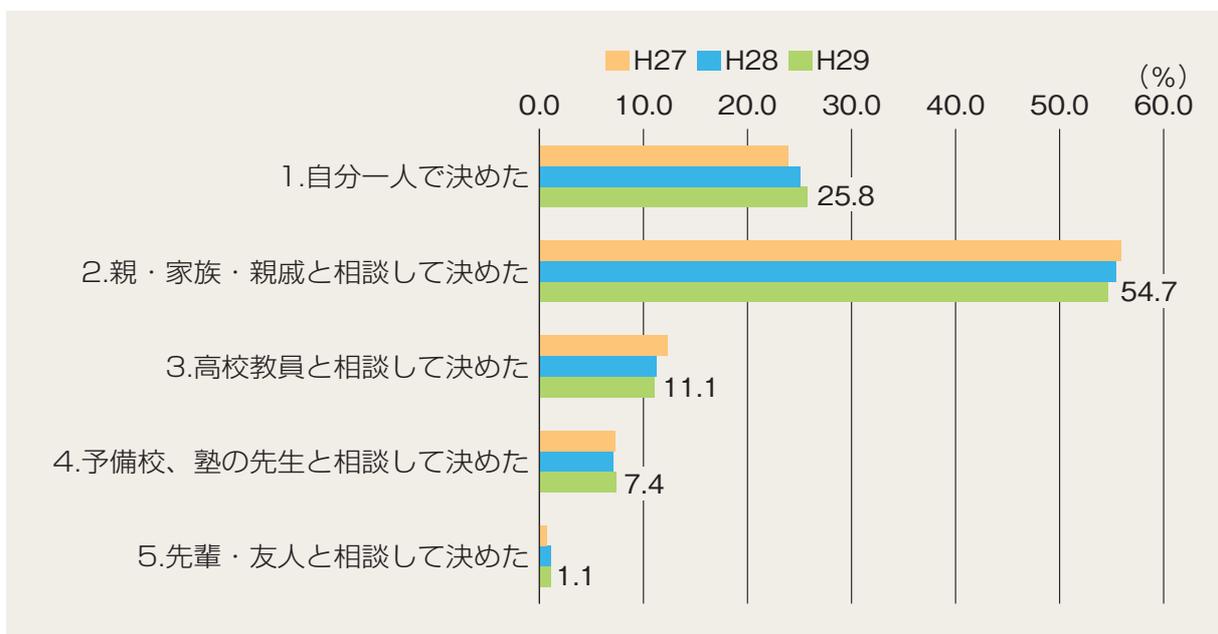
## Q4 | 本学の志望順位は何位でしたか。(1つ選択)



「4. 第3志望以下 (一般入試)」は、4割強である。続いて、「1. 第1志望 (推薦入試)」は約3割、「2. 第1志望 (一般入試)」は約15%であり、第1志望の合計は約45%である。なお、「3. 第2志望 (一般入試)」は12.7%である。

経年的に、「4. 第3志望以下 (一般入試)」と「1. 第1志望 (推薦入試)」は増加傾向にあり、「3. 第2志望 (一般入試)」は減少の傾向が見られる。

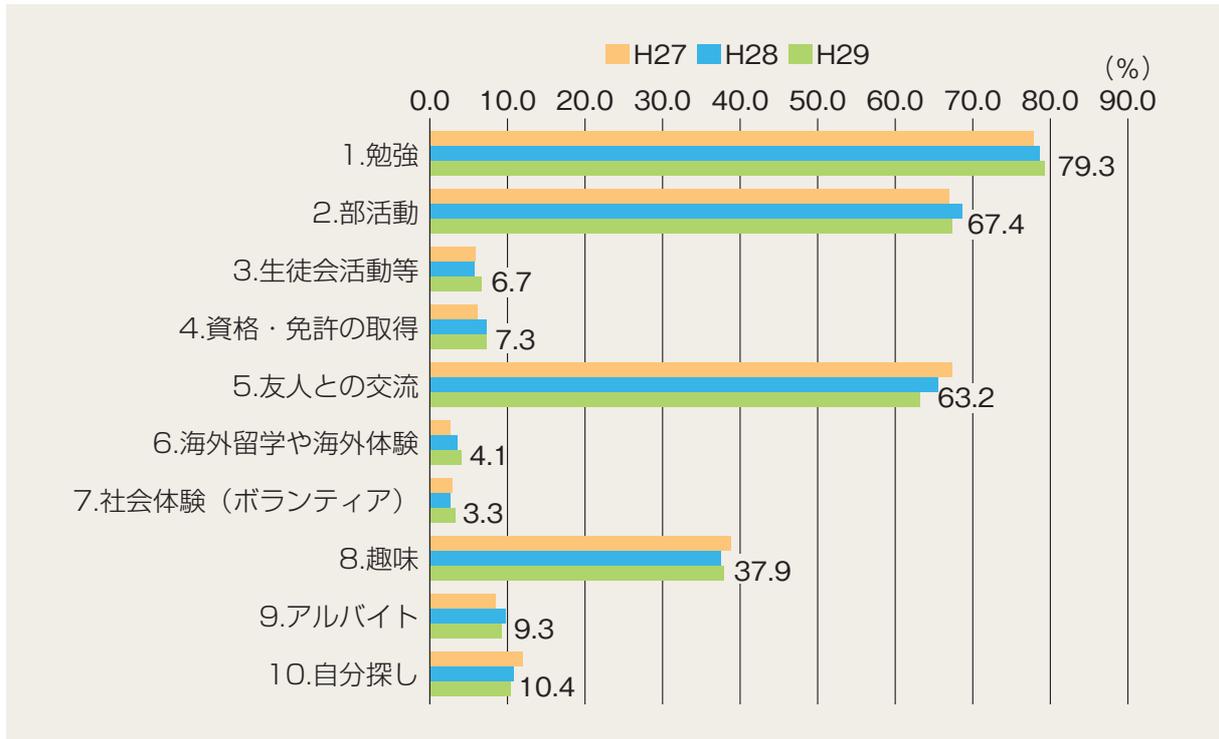
## Q5 | 本学への入学をどのように決定したか、お答えください。(1つ選択)



「2. 親・家族・親戚と相談して決めた」が最も高く約55%であり、「1. 自分一人で決めた」は約26%である。経年的に、前者が減少傾向にあるのに対し、後者は増加傾向にある。

## Q6

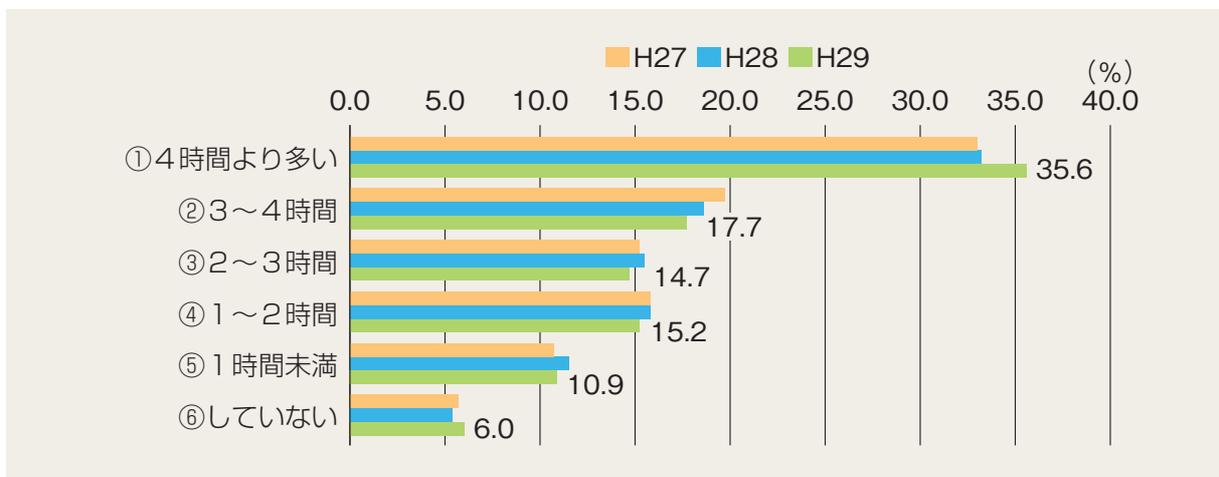
高校時代は、どのようなことに力を入れて取り組んできましたか。  
(優先順位の高いものから順に3つまで)



「1.勉強」(79.3%)、「2.部活動」(67.4%)、「5.友人との交流」(63.2%)の3項目は各年度で比較的高い割合を示している。「10.自分探し」(10.4%)、「9.アルバイト」(9.3%)はそれぞれ1割前後である。「1.勉強」、「6.海外留学や海外体験」は経年で増加傾向が見られる。

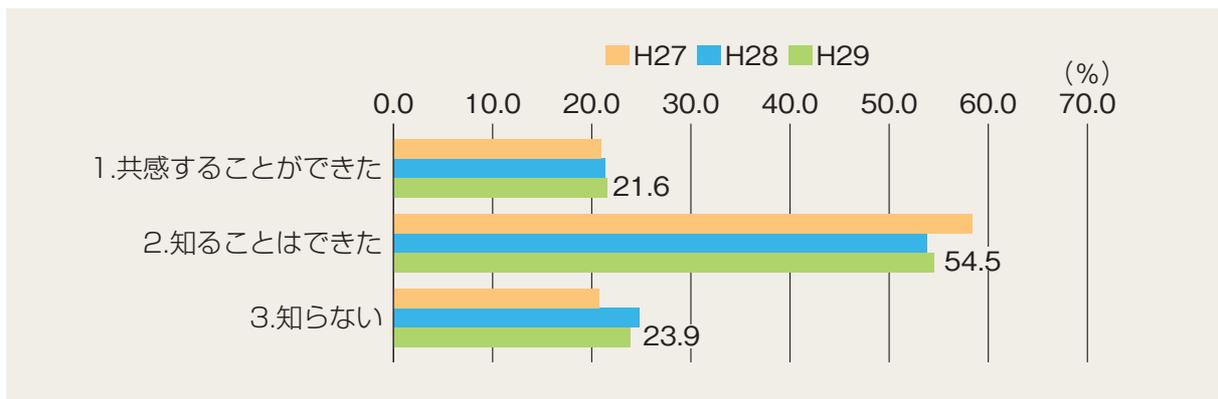
## Q7

高校3年次、授業以外の、1日あたりの学習時間はどのくらいですか。  
(1つ選択)



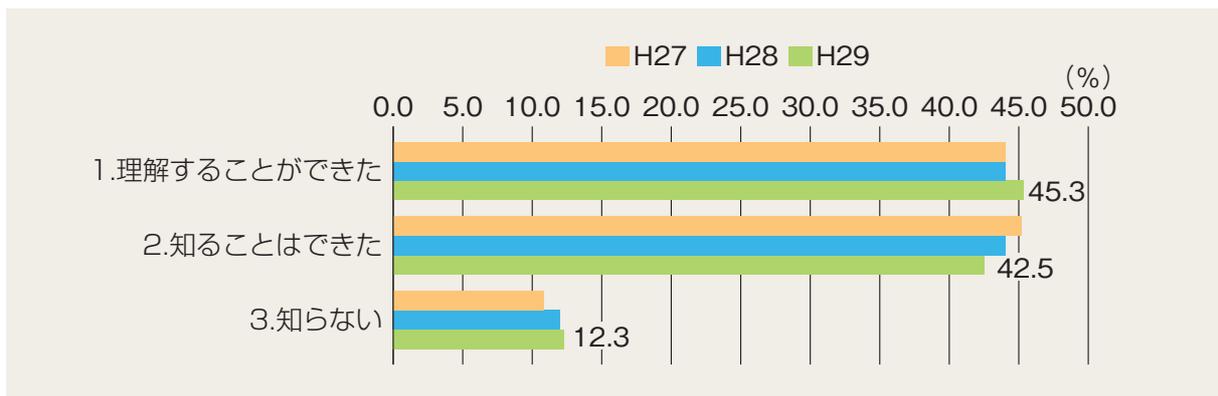
「①4時間より多い」は約36%、「②3～4時間」は約18%である。「③2～3時間」(14.7%)と「④1～2時間」(15.2%)は合わせて約3割、「⑤1時間未満」(10.9%)と「⑥していない」(6%)は合わせて約17%になる。

## Q8 | 大学の「建学の精神」を知り、共感できましたか。(1つ選択)



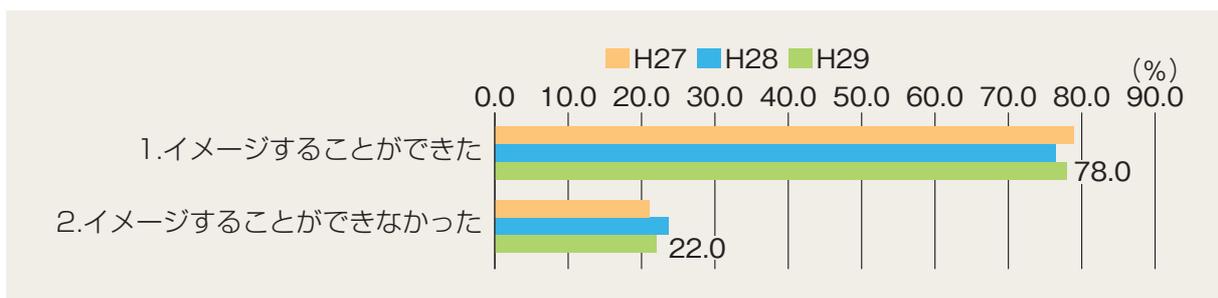
「2. 知ることはできた」は前年度より微増の 54.5%である。「1. 共感することができた」は経年で微増の 21.6%、「3. 知らない」は前年度より微減の 23.9%である。

## Q9 | 所属学部・学科の教育目標を知り、理解できましたか。(1つ選択)



「1. 理解することができた」は約 45%であり前年度より微増、「2. 知ることはできた」は約 43%であり、経年で減少傾向にある。「3. 知らない」は約 12%で、経年で微増の傾向が見られる。

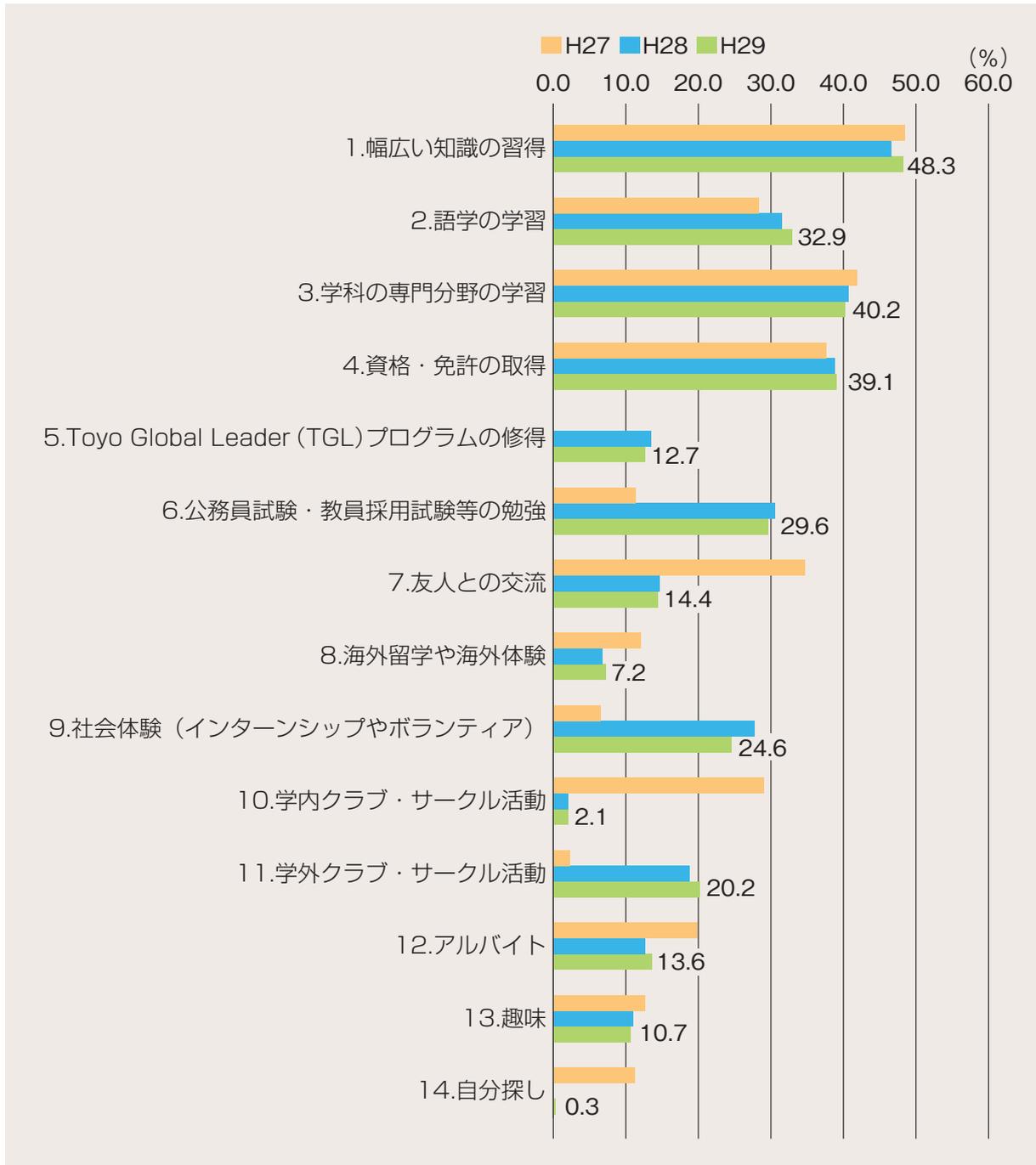
## Q10 | 履修登録に際し、4年間で授業科目をどのように体系化して履修していくかをイメージできましたか。(1つ選択)



「1. イメージすることができた」は 78.0% で、前年度より微増した。

# Q11

大学生活で特に力を入れて取り組みたいことは何ですか。  
(優先順位の高いものから順に3つまで)

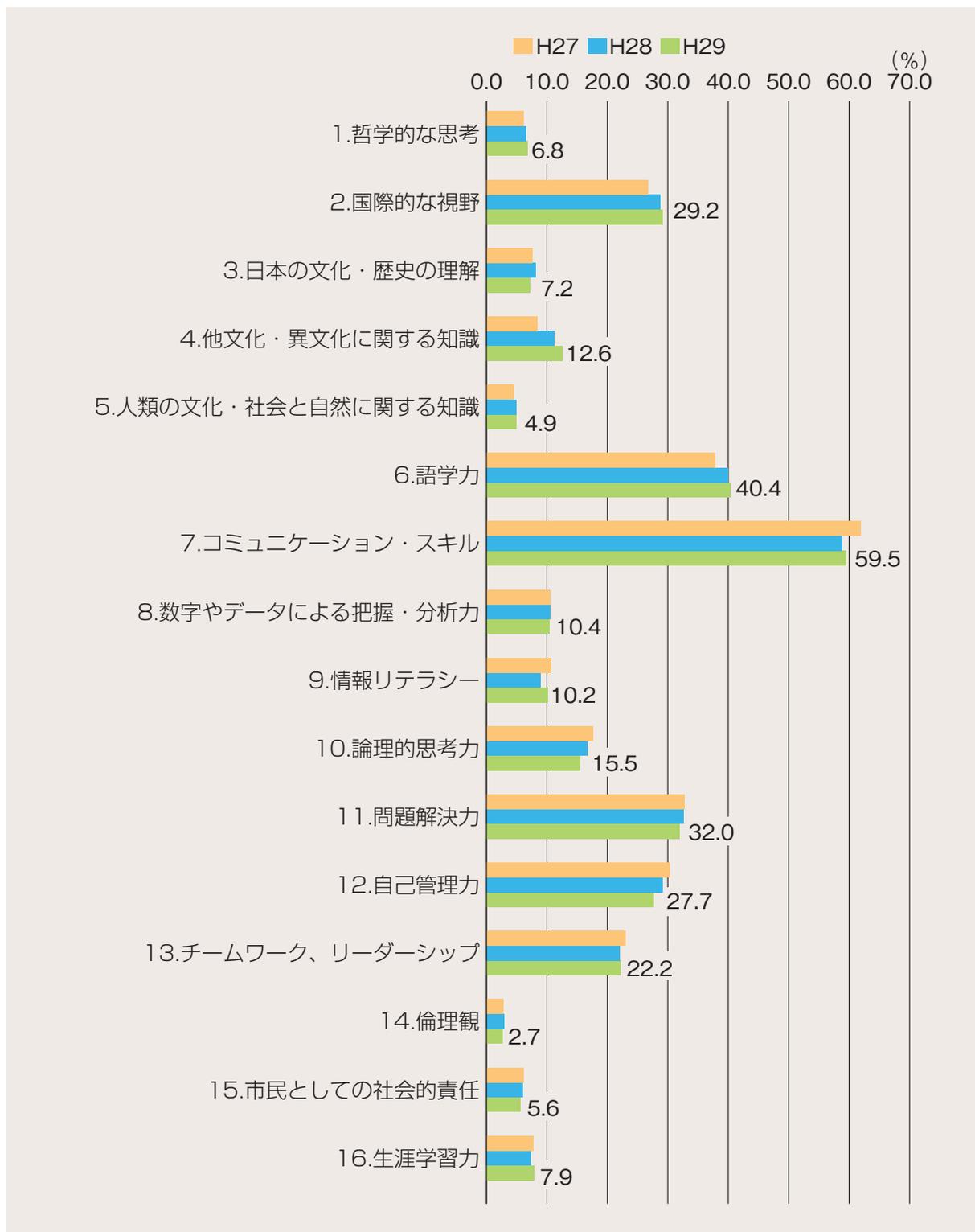


※ 5 については、H28 から項目追加

「1. 幅広い知識の習得」は 5 割弱、「3. 学科の専門分野の学習」、「4. 資格・免許の取得」はほぼ同じく約 4 割、「2. 語学の学習」、「6. 公務員試験・教員採用試験等の勉強」はそれぞれ約 3 割、「9. 社会体験 (インターンシップやボランティア)」、「11. 学外クラブ・サークル活動」は 2 割を超えている。

「2. 語学の学習」、「4. 資格・免許の取得」、「11. 学外クラブ・サークル活動」は経年で増加の傾向が見られる。

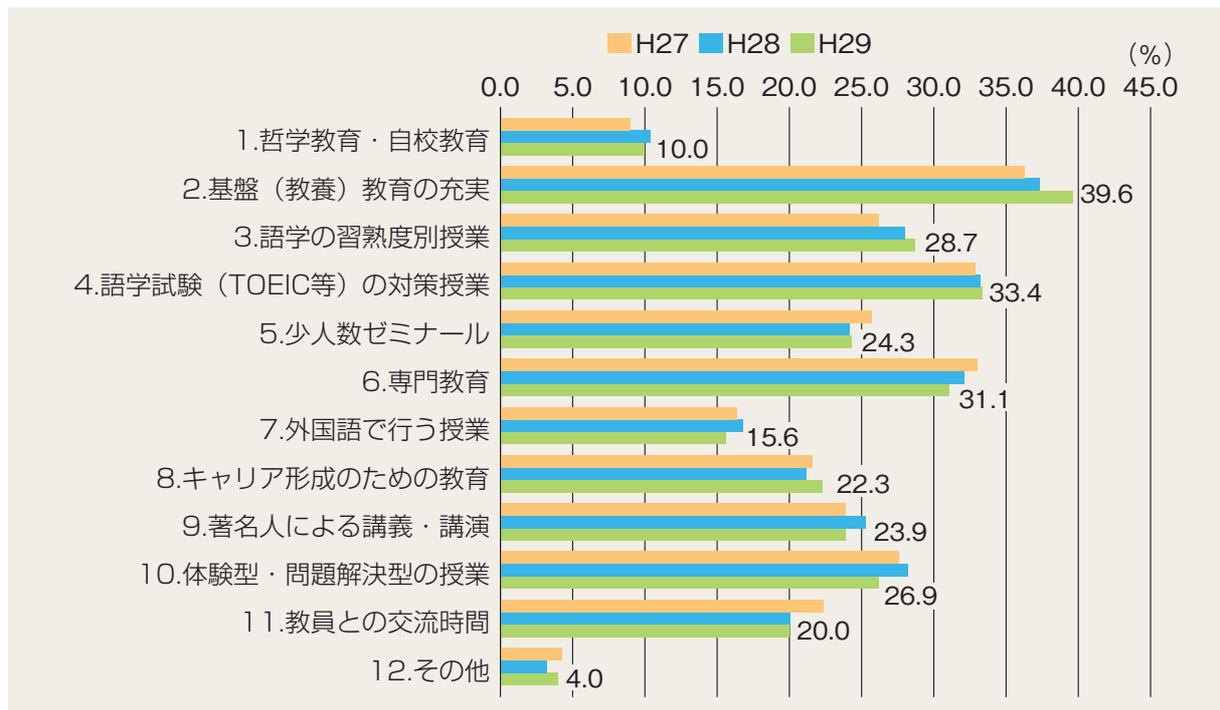
**Q12** 自分の将来のために、4年間でどのような力を身につけたいですか。  
(優先順位の高いものから順に3つまで)



比較的高い割合を占めているのは、約6割の「7. コミュニケーション・スキル」、約4割の「6. 語学力」、その他、約3割の「11. 問題解決力」、「2. 国際的な視野」、「12. 自己管理能力」である。そのうち、経年で増加傾向にあるのは、「6. 語学力」、「2. 国際的な視野」である。

## Q13 大学に対して、もっと充実してほしいと感じることは何ですか。 (優先順位の高いものから順に3つまで)

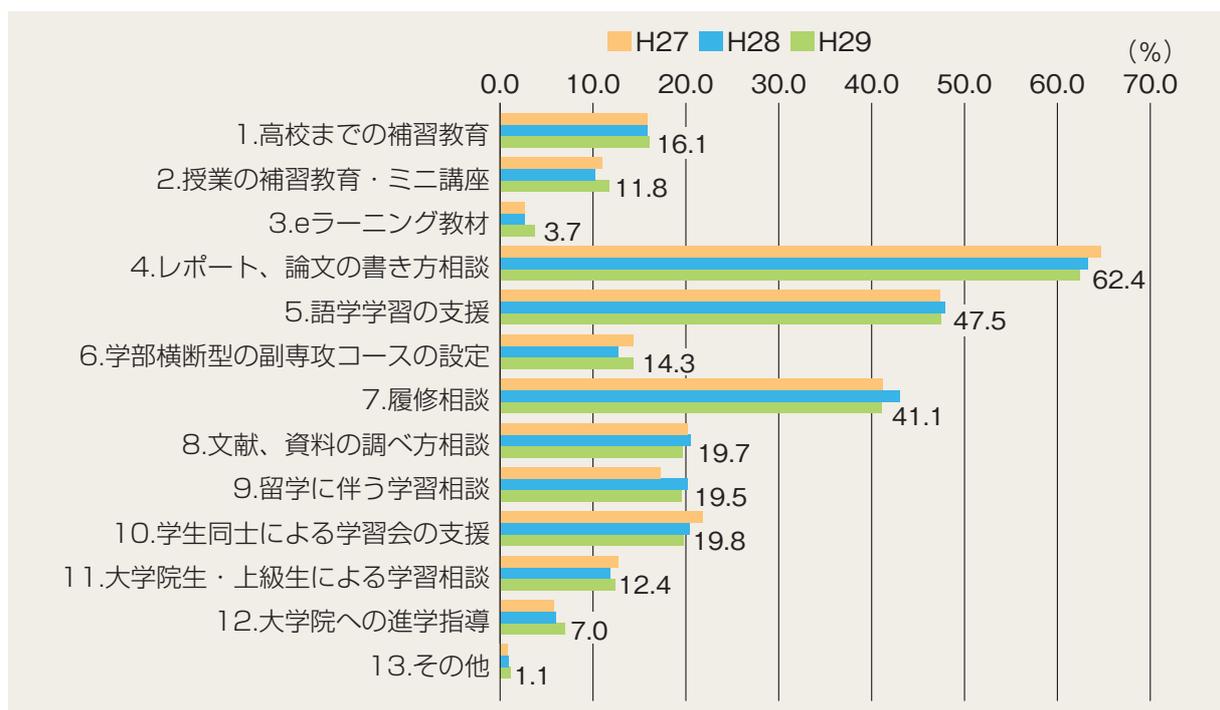
### 13-1. 授業について



「2. 基盤(教養)教育の充実」は約4割弱、「4. 語学試験(TOEIC等)の対策授業」、「6. 専門教育」は3割強、「3. 語学の習熟度別授業」は3割弱と比較的高い。この4項目のうち、「6. 専門教育」を除いたその他3項目の割合はいずれも経年で増加傾向にある。

また、「10. 体験型・問題解決型の授業」、「5. 少人数ゼミナール」、「9. 著名人による講義・講演」、「8. キャリア形成のための教育」、「11. 教員との交流時間」は2割を超えている。

### 13-2. 学習支援について

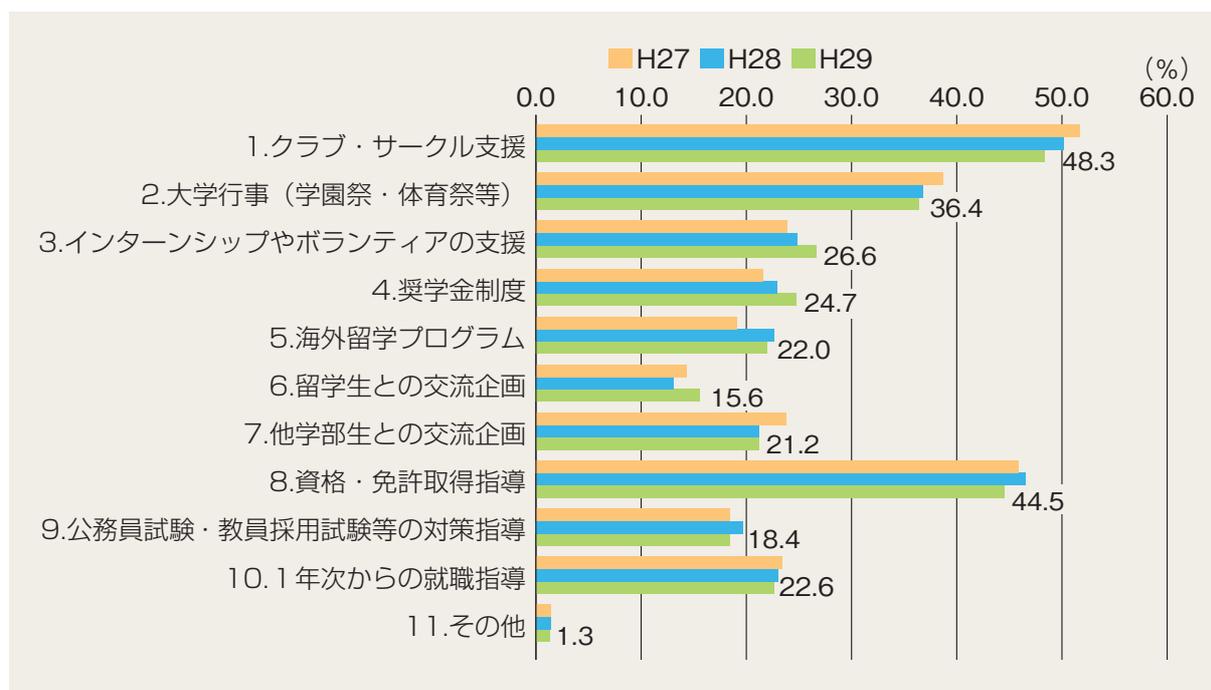


「4. レポート、論文の書き方相談」は6割強、「5. 語学学習の支援」は5割弱、「7. 履修相談」は4割強であり、どの年度においても各項目の中で高い割合を占めている。

「10. 学生同士による学習会の支援」、「8. 文献、資料の調べ方相談」、「9. 留学に伴う学習相談」は約2割である。

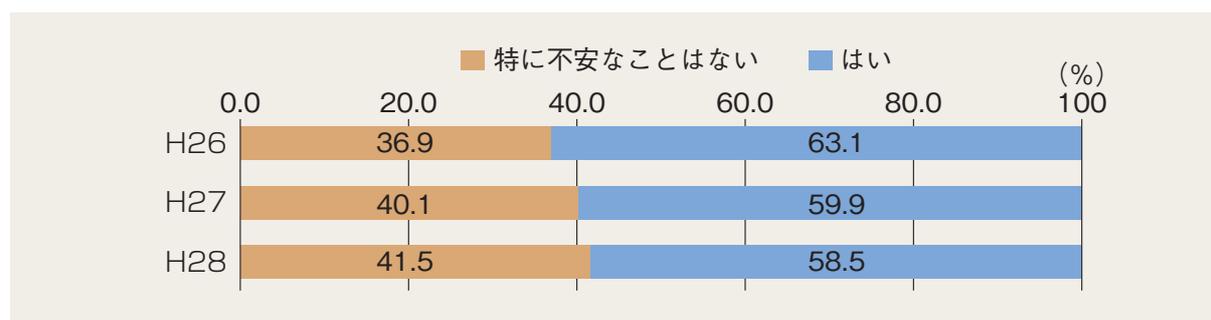
その他、「1. 高校までの補習教育」(16.1%)、「12. 大学院への進学指導」(7.0%)と多様な要望を持っている学生がいることに留意すべきである。

### 13-3. 学生生活について



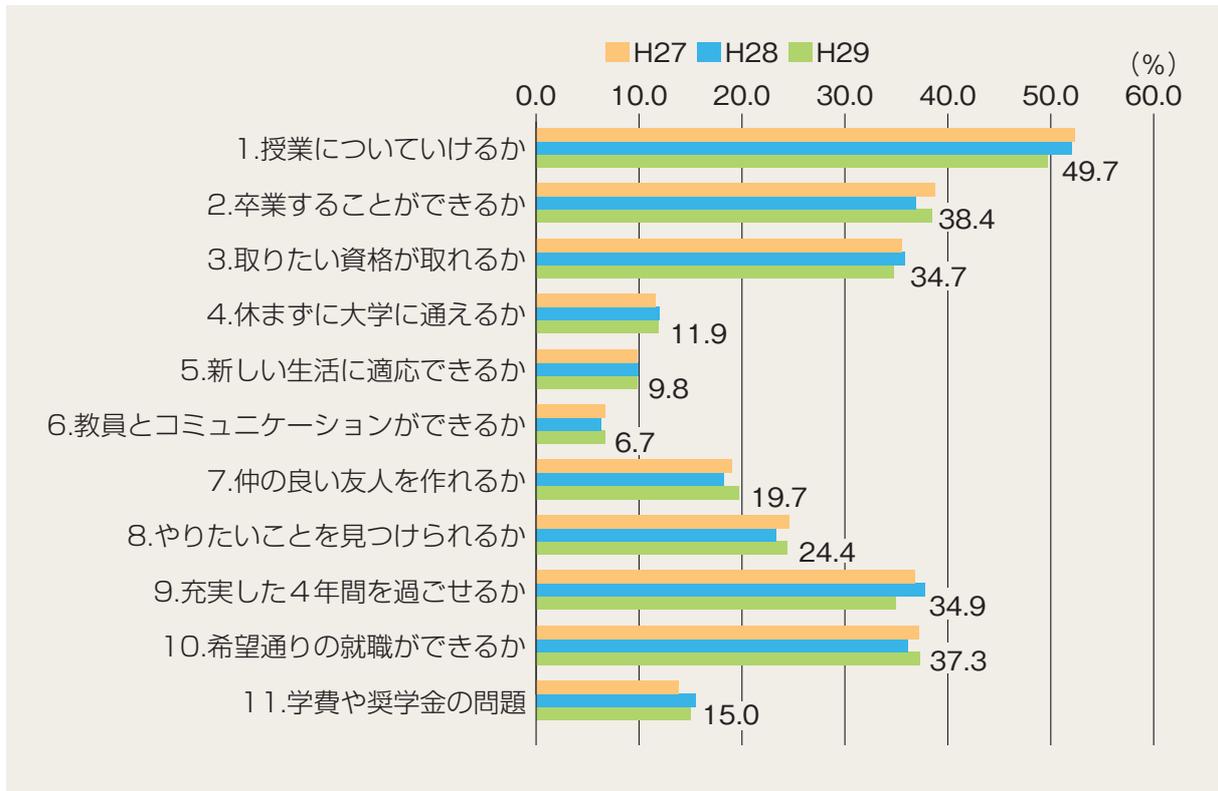
「1. クラブ・サークル支援」は5割弱、「8. 資格・免許取得指導」は約45%、「2. 大学行事 (学園祭・体育祭等)」は約36%と例年高い割合を占めている。「3. インターンシップやボランティアの支援」は約27%で、経年で増加傾向が見られる。「4. 奨学金制度」、「10. 1年次からの就職指導」、「5. 海外留学プログラム」、「7. 他学部生との交流企画」は2割を超えている。「9. 公務員試験・教員採用試験等の対策指導」、「6. 留学生との交流企画」も15%を超えている。

## Q14 | 今後、不安なことはありますか。



「1. はい」と回答する割合は6割弱であり、経年で減少傾向にある。

**Q14-2** はい、と回答した場合には、以下の選択肢から、あてはまるものを選択してください。(優先順位の高いものから順に3つまで)



「1. 授業についていけるか」の割合は経年的に減少しているが、未だ5割弱である。続いて「2. 卒業することができるか」、「10. 希望通りの就職ができるか」、「9. 充実した4年間を過ごせるか」、「3. 取りたい資格が取れるか」は3割台、「8. やりたいことを見つけられるか」は2割強、「7. 仲の良い友人を作れるか」、「11. 学費や奨学金の問題」、「4. 休まずに大学に通えるか」は1割台である。

**Q15** 東洋大学および学部・学科をよりよくするため改善が必要だと思われるのはどのようなところですか。

自由記述のため省略。

and Virtue, are Independence and Self-initiative The Basis of All Learning Lies in Philosophy, Integrating Knowledge